

月曜3講・哲学入門 課題の取組み・単位の取得について

グループワーク(合計4回)への参加点[20点]、3回の(小)レポートの提出点[70点]

および常日頃の講義参加点[10点]で評価します。

(各講義日の講義実施形態)

第一講座[4/9]通常講義 第二講座[4/16]通常講義・課題や単位の説明 第三講座[4/23]通常講義

第四講座[4/30]通常講義 第五講座[5/7]グループワーク①/レポート用紙(1)を配布

第六講座[5/14]通常講義 第七講座[5/28]通常講義

第八講座[6/4]グループワーク②/レポート用紙(2)を配布 第九講座[6/11]通常講義

第十講座[6/18]通常講義 第十一講座[6/25]通常講義

第十二講座[7/2]グループワーク③/レポート用紙(3)を配布 第十三講座[7/9]通常講義

第十四講座[7/16]通常講義 第十五講座[7/23]グループワーク③/各レポート提出最終締め切り

レポート用紙 配布日	レポート一次提出期間	おなさけ 二次提出期間 (少し減点)	
レポート(1) 5/7月	5/14月,5/28月 各講義終了後	6/11月,6/18月,6/25月各講義終了後	
レポート(2) 6/4月	6/11月,6/18月,6/25月各講義終了後	7/9月,7/16月 各講義終了後	
レポート(3) 7/2月	7/9月,7/16月講義後・7/23月講義始	7/24火~7/28土(メール送信)	
レポート用紙はグループワークの日に配布しますが、提出受付は配布の次週以降です。			配点

極力それぞれの一次提出期間に間にあうように提出してください。

どのレポートも一次締切を遅れての提出は最終講義日までは受け付けますが、グループワーク当日の持参はできるだけさけてください。ただし最終講義日はグループワークの日ですが、提出を受け付けます。(ただしグループワーク開始前には提出できるよう事前に仕上げてきてください。)

最終講義日にレポート提出が間に合わない場合のみ、メールでの提出を認めます。

※メール送信先は katsuki6_6@yahoo.co.jp です。

添付ファイルは使用せず、メール冒頭に「講義名・開講日時(哲学入門・月3)・学籍番号・班・名前」を記入のうえ、タスク([あ][い])両方をメールに直接入力してください。受信できたら後日渡辺から受取確認メールを返信します。

※グループワークの参加がゼロの生徒 または 未提出のレポートが一つでも残る生徒には単位は認定できません。

哲学入門 予習プリント[自然観中心](月3)【 】穴埋めの解答

- 1 無限定
- 2 ログス
- 3 存在
- 4 原子
- 5 無知
- 6 イデア
- 7 ボリス
- 8 ストア
- 9 善一者
- 10 三位
- 11 形而
- 12 意志
- 13 普遍
- 14 唯物
- 15 永劫
- 16 脚本

(第一講座～第四講座まとめ) レポート(1)タスク[あ]の範囲

①万物の根源を考える ②エレア派と古代原子論

③正義をめぐって—ソクラテス対トラシマコス ④アリストテレスの目的論的自然観

①**タレス**は大地(地球)は湧き出る水の力で、宇宙空間内を支えられているとの発想から、宇宙万物の根源を水であるとした。**アナクシマンドロス**の言う【1 _____ なもの】や**アナクシメネス**の「気」も、宇宙の根本素材として考えられたものである。**ヘラクレイトス**は万物流転の考えを示しつつ、宇宙の生成を、火による燃焼と、熱による水の循環としてとらえる。生あるもののそれぞれが、適切な火と水の配分・比率(【2 _____】)をわきまえることが善く生きることである。／②**パルメニデス**は「あるはあり、あらぬはあらぬ」と言う。つまり、あるものがあらぬものになったり、あらぬものがあるものになったりすることはないがゆえに、真に【3 _____】するもの＝実在は生成消滅や性質的变化、運動等を一切含まない完全で不変不動のもので、知性によってのみとらえられ、感覚には現れないとした。**古代原子論者**はパルメニデスの発想に倣い、それ自体は色、味、熱さ等の感覚に現われる性質を一切もたないが、相互に組み替わって諸性質を現す窮極最小の構成要素として【4 _____】(アトム)というものを考えた。／③**ソクラテス**は、人間にとって「善悪のみきわめ」こそが大切だと考え、「正義とは何か」「幸福とは何か」といった倫理的問題を、「知者」だとみなされている人々との対話の中で徹底的に問い、結果お互い無知であることがわかり、その【5 _____ の知】のうえにさらなる論理的探求を続けた。その考えを受け継ぎ、**プラトン**はソクラテスが問うた物事の本質を【6 _____】としてとらえ直した。プラトンのアイデアは、ソクラテスが求めていた、生き方の規範となる根本的な知の中核となるものである。また、パルメニデス以来の「真に存在するものは不変不滅である」との基本思想に合致する、永遠性をもつ真理でもある。アイデアは外から教えられる概念ではなく、教育的手ほどきのもと、我々が自らの内に見出すものである。／④**プラトン**は哲学的対話で「アイデア＝数々の善き行為に共通する善さ、徳の本質」を把握し、厳格に実行に移す強きこそ道徳の要であり、国家の指導者に必要な資質であることを強調した。彼の弟子**アリストテレス**の関心は、社会の中でのお互いの友愛的な結びつきと、その心を育む性格形成の方に幾分シフトしている。「よろこぶべきものをよろこび、苦しむべきものを苦しむ」ように性格形成することが真の教育だと言う。アリストテレスは「人間は【7 _____】(都市国家)を作る自然本性がある」とし、社会の中で自らにふさわしき役割を果たし、行為選択の際は熟慮して、自らの行為の結果に責任をもつことが有徳であるとした。

(第六講座～第九講座まとめ) レポート(2)タスク[あ]の範囲

⑥エピクロスとストア派の自然観 ⑦プロティノスの宇宙観—プラトン主義者として ⑧哲学と宗教—フィチーノ

⑥**プラトン**や**アリストテレス**が、善をわきまえ道徳的行為をなすことを幸福の要としたのに対し、**エピクロス**は苦痛のない平穏な快の感覚が持続することこそ幸福であるとした。快を求め苦を避ける感覚を自然体で備えているのは赤ん坊であり、赤ん坊の方がむしろ余計な知識や価値観に縛られた大人より自然そのものの価値を理解しているとされる。一方で、「ストイック」の語源となる【8 _____ 派】の人々は、赤ん坊が転んでも転んでも立ち上がるように、直接には苦痛なことであっても「自らにふさわしきことをなす」のが人間の自然本性であるとする。彼らは禁欲的で自制的な実践を説き、常に理性に従う安定した心のあり方こそが幸福だとみなす。／⑦**アイデア論**に立つ**プラトン主義**の新潮流(**新プラトン主義**)の祖となる**プロティノス**は、プラトンの**アイデア論**の頂点にあり、太陽に喩えられる「善のアイデア」を、万物に存在を与える源である【9 _____】としてとらえなおす。「善一者」は言葉や形で説明できるものではなく、我々の魂の奥深くに発見することができるものである。我がうちに自らの源を見つめる善き「知性」があることを知ることが「幸福」である。われわれには直接に接したり意識したりすることのないはるか遠くの存在と「共感」することがある。自分だけがよくなるだけでなく、全宇宙のあらゆる存在を考慮に入れて生きるのが真に知性ある者の姿である。⑧「子なる神」**イエス(キリスト)**が罪深き我々に替わって十字架にかかり、それによって「父なる神の救い」が、「聖霊」の働きを通じて我々の魂にもたらされるとの【10 _____ 一体】のキリスト教の教義を体系化した哲学者が**アウグスティヌス**である。ルネサンス期に活動した**フィチーノ**はアウグスティヌスの影響を受けつつ、「本来罪深い者」というキリスト教の人間観は受け継がず、人間は神を自然本性的に愛するとし、神への愛によってそれぞれの自然本性に応じた場に配置されるとした。魂を、本来的に善につながるとした点では、フィチーノはむしろ**プロティノス**の後継者であると言える。フィチーノは、神的な最高善を目標としている点で、哲学と宗教は姉妹であるとする画期的な説を唱える。

(第十講座～第十四講座まとめ) レポート(3)タスク[あ]の範囲

⑩デカルトの真理観 ⑪理性的存在者としての人間

—カント ⑫唯物論的自然観—エルヴェシウスとマルクス ⑬物語の主体としての自己—マックンタイア

⑩**神**や**精神**等、形としては見えない領域の事柄を根源的存在とみなし探求する学を、【11 _____ 上学】と言うが、**デカルト**はそれを全学問の根本とみなし、形而上学の確かな出発点を見出すため、少しでも疑う余地のある事柄は偽として退けた。こうした徹底的懐疑によっても疑い得ないものが疑う我、「考える我」の存在であった。「考える我」が自然界をめぐる事柄について、細部にいたるまで不明瞭な点を残さず緻密に認識することで真理が得られ、主要学問(自然科学、医学、機械工学)の完全な知識を前提として、「完全な道徳」が獲得できる。／⑪**カント**も**デカルト**同様、道徳の獲得こそを生きる最大目的としたが、学問知を前提として道徳を語るのではなく、「我々の意志がどこを向いているか」を道徳の要とした。つまり「自分をいかに律し、他者にいかに向き合っているか」という、自らの行いの根底にある基本姿勢(カントの言葉で「【12 _____ の格律】」)が矛盾を含まず、広く他と共有できるほどの原則(カントの言葉で「【13 _____ 的立法の法則】」)になりうるかを常に自問自答しながら行為するべきだという。自分が避けることを他に強要したり、自分に許

すことを他には許さないような姿勢であれば矛盾しており、普遍的な道徳原則に基づく行為とは言えない。／⑬人間のあり方を考える際に、超自然的な神の支配や意志を前提とせず、物的法則や快苦の有無を中心にするのが【14 論】である。**エルヴェシウス**は、認識の主たる源泉を実経験の内に求める**ロック**の発想を基盤にして、「感覚」「記憶」「判断」のすべてが基本的に快を求め苦を避ける感受性に還元されるとした。道徳や公共性の尊重も、自身の快を損ねないための自愛の原理に基づく。快苦という、直接的感覚を生る指針とする唯物論の発想は明快で、実際の行動につなげやすい利点がある。労働者中心に階級闘争による革命行動を説いたのが**マルクス**である。／[⑬プラス]対立する二勢力に対し、従来の道徳は「公正な裁き」があると考え、キリスト教や哲学等に後ろ盾を求めてきたが、**ニーチェ**は「公正な裁き」がなく、あるのは自らの力に応じてほしいものを他から得る、という戦いの現実だけだという。ニーチェはある点で、明確な反戦思想であるカントと意外にも接近する。殲滅戦を避け敵と条約を結ぶのが自然な成り行きだと、両者とも考えているのだ。ただしカントは停戦を恒久的な平和にするため「国際連合」成立の必要性を説き、「お互いの人格の完成こそを目的とする」道徳化により戦争をなくすことをめざすが、ニーチェは不安定な均衡を肯定して生きること、今の生のこの瞬間が無限回めぐること(【15 回帰】)の肯定を説く／⑭民主主義が広がり、個人主義的な自由が強調される現代にあって、**マッキンタイア**は共同体の歴史や相互関係のなかで生きている自分、という視点を「物語の登場人物としての自己」というとらえかたで展開する。基本的に私は「自分が企画したわけではない舞台に立たされ、自分の役ではない演技を受け持たされている」のだが、私は単なる出演者であるだけでなく、自分の人生の「共同【16 家】」でもある。私は出演しつつ、他者との相互関係のなかで物語を作っている。物語において、登場人物の行為が一定の文脈の中におかれているように、私自身が私自身の行為の脈略について説明できることが自己同一性である。そこには、「考える我」を起点とするデカルトにはない、他者や共同体との関係の中で自己を見出す柔軟な視点がある。

月曜3講・哲学入門／グループワーク実施・レポート手書き!提出要項

グループワーク(四回) ① 5/7月 ② 6/4月 ③ 7/2月 ④ 7/23月 (参加点は一回最大5点)			20
レポート用紙 配布日	レポート一次提出期間		おなきけ 二次提出期間(少し減点)
レポート(1) 5/7月	5/14月,5/28月 各講義終了後		6/11月,6/18月,6/25月 各講義終了後 22
レポート(2) 6/4月	6/11月,6/18月,6/25月 各講義終了後		7/9月,7/16月 各講義終了後 26
レポート(3) 7/2月	7/9月,7/16月 講義後・7/23月 講義始		7/24火～7/28土(メール送信) 22
レポート用紙はグループワークの日に配布しますが、提出受付は配布の次週以降です。			配点

※グループワーク当日は遅刻厳禁!遅刻者は2点減点。残り時間20分未満で入室の場合、欠席扱い(0点)。
 ※配布するレポート用紙には表側にタスク[あ](哲学・思想史理解)、裏側にタスク[い](グループワーク関連)の二つの課題があります。両方(表側も裏側も)必ず記述すること!片面だけの記述は受け付けません。

※タスク[あ]は、それぞれのレポートで対象とする範囲が指定されています。
 レポート(1):第1,2,3,4講座 / レポート(2):第6,7,9講座 / レポート(3):第10,11,13,14講座
 指定範囲のどれかの講座のエントリーシートにアクセスし、そこに記載された選択テーマから一つを選びます。
 「せたなべ哲学」ホームページトップで月曜3講・哲学入門をクリックすればエントリーシートの入口があります。

タスク[い]はグループワークに関連したテーマです。(このプリントの裏面でテーマが確認できます。)
 グループワーク実施日に欠席した場合、設問印刷済の専用レポート用紙をホームページ「せたなべ」からダウンロード・印刷して使用してください。(印刷ができない場合は個人のルーズリーフ等を用いて下さい。)
 ※レポートは提出期間内(上の表参照)の毎回の講義終了直後に直接渡辺まで提出してください。
 ただし最終講義日のみ、グループワーク④実施前にレポート(3)を回収します。
 ※グループワーク①②③実施日は、どのレポートも一切提出を受けつけないので、注意してください。
 ※レポート(3)のみ、最終講義日までに提出できない場合、メール提出を認めます。※メール送信先は katsuki6_6@yahoo.co.jp です。添付ファイルは使用せず、メール冒頭に「講義名・開講日時(哲学入門・月3)・学籍番号・班・名前」を記入のうえ、タスク([あ][い])両方をメールに直接入力してください。受信できたら後日渡辺から受取確認メールを返信します。
 ※ホームページ「せたなべ哲学」を活用しよう。(GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索)講義スライドと同内容のPDFやグループワークの資料、レポートのタスクを公開しています。
 ※グループワークの参加がゼロの生徒 または 未提出のレポートが一つでも残る生徒には単位は認定できません。

A 君



エントリーシートはレポートのタスク[あ]のテーマだけでなく各講義の着眼点も書いてある。家に帰ったら早速アクセスしてみよう。

B さん



タスク[い]はこのプリントの裏面でテーマの予習ができる。このプリントは毎回もってきてね。なくしちゃダメよ。

C 君



グループワークで当日配布する資料では僕達が対話している。タスク[い]はそれを読んで書いてほしい。